九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Clinical and Prognostic Significance of the Epithelial-Mesenchymal Transition in Stage IA Lung Adenocarcinoma: A Propensity Score-Matched Analysis

松原，太一

https://doi.org/10.15017/2556288

出版情報：九州大学，2019，博士（医学），課程博士
バージョン：
権利関係：

氏　　名：松原　太一

論　文　名：Clinical and Prognostic Significance of the Epithelial–Mesenchymal Transition in Stage IA Lung Adenocarcinoma: A Propensity Score–Matched Analysis
（StageIA 肺腺癌における上皮間葉転換の意義および予後への影響について、傾向スコアマッチングを用いての検討　）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

上皮間葉転換(EMT)は肺癌を含む様々な癌腫で転移や予後不良と相関がある。しかしながら IA 期肺腺癌における EMT の意義は不明である。今回我々は E-cadherin と Vimentin の免疫染色を行い、IA 期での EMT の意義を検討した。上皮グループが 105 症例(57.4%)、中間グループが 64 症例(34.9%)、間葉グループが 14 症例(7.7%)であった。EMT を起こした腫瘍は高齢者に多く認められ、有意に術前の C/T 比が高かった。生存解析を行うにあたり、プロペンシティスコアを用いて 2 群間の患者背景のバランスを整えた。EMT を起こした腫瘍は有意に予後不良であり、無再発生存において独立した予後不良因子となった。以上のことから、IA 期肺腺癌においても EMT は予後不良因子であった。